

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 9 月 13 日 (2007.9.13)

【公開番号】特開 2006-198422 (P2006-198422A)
 【公開日】平成 18 年 8 月 3 日 (2006.8.3)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-030
 【出願番号】特願 2006-103985 (P2006-103985)
 【国際特許分類】

A 4 5 D 34/04 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 34/04 5 1 5 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 7 月 27 日 (2007.7.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

毛、特に睫毛又は眉に物質を塗るための装置であって、長手方向軸線（ X ）を有する支持体を含むアプリケーション要素を備え、該アプリケーション要素に、少なくとも 2 列の歯を設け、該列の各々が、2 つの列間の間隔よりも小さな距離を以て離間した少なくとも 2 つの歯で構成され、前記列の各々が、前記支持体の長手方向軸線（ X ）と交差するように配置されており、前記歯は、前記支持体の一つの面だけから延びていることを特徴とする装置。

【請求項 2】

前記歯が、長円断面のベースを有することを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

各列が、第 1 端と第 2 端とを有し、前記列の第 1 端が、前記支持体の長手方向軸線（ X ）に平行である第 1 の軸線（ X_1 ）に沿って並び、前記列の第 2 端が、前記第 1 の軸線（ X_1 ）と平行である第 2 の軸線（ X_2 ）に沿って並び、且つ、前記第 1 及び第 2 の軸線（ X_1 、 X_2 ）が、前記長手方向軸線（ X ）の各側に位置することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記歯列は、第 1 の列及び該第 1 の列に連続する第 2 の列の、軸線（ X ）に沿った突起が、実質的に重ならないように、前記支持体に配設されることを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れか一項に記載の装置。

【請求項 5】

前記歯の前記ベースが矩形の断面を有し、各矩形の長辺が、対応する列の軸線に平行であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 の何れか一項に記載の装置。

【請求項 6】

特に、1 つの列内に、或いは、連続する列間に、前記支持体に取り付けられた少なくとも 1 房の剛毛が更に設けられていることを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れか一項に記載の装置。

【請求項 7】

前記アプリケーション要素が、端部分、特に、フロント部分（12）とリア部分（13）とを有し、これらの間に、少なくとも 20 乃至 50 の範囲の多数の歯を有することを特徴とする請求項 1 ～ 6 の何れか一項に記載の装置。

【請求項 8】

前記アプリケータ要素に、少なくとも部分的に、列の軸線を含む幾何学的分離面の両側に、互い違いにオフセットされた歯（71）の列が設けられていることを特徴とする請求項 1～7 の何れか一項に記載の装置。

【請求項 9】

前記軸線（Z、Z'）が前記支持体の長手方向軸線との間に形成する角度（ i ）が、 45° 以下であることを特徴とする請求項 1～8 の何れか一項に記載の装置。

【請求項 10】

毛、特に睫毛又は眉に物質を塗るための装置であって、一端に、請求項 1～9 の何れか一項に記載のアプリケータ要素が設けられたステムと、物質の供給量を受け入れるためのレセプタクルと、前記アプリケータ要素が前記レセプタクルから出されるときに前記アプリケータ要素を拭うためのワイパ部材とを有するアプリケータを備えたことを特徴とする装置。